

第3回 京都府水素社会みらいプロジェクト検討会議議事要旨

日 時：令和4年3月10日（木） 14：00～16：00

場 所：Web会議

出席者：別添委員等名簿のとおり

内 容：

1. 令和3年度京都府水素関連事業について

(1) 令和3年度事業について（資料1）

令和3年度事業の概要について、事務局から説明。

(2) 燃料電池フォークリフト普及等に向けた導入実証について（資料2）

ヤマト・H2Energy Japan(株)から報告。

(3) 京都舞鶴港における水素活用方法等調査・分析について（資料3）

デロイトトーマツコンサルティング合同会社から報告。

2. 令和4年度以降の府内における水素利活用に向けた意見交換（資料4）

【主な意見】

- ・エネルギー利用全体の中で、水素をどのように位置づけるかが課題。
- ・水素はエネルギーキャリアとしての利用や電化が難しい分野での熱利用が主になってくると考えられるが、コスト低減を図りつつも、防災面での活用や府内企業の産業振興等の付加価値とあわせて評価していく必要がある。
- ・地方行政においては、地域内や地域間、事業者（行政含む）間を繋いでいく役割が期待される。
- ・目に見える形で水素が利用され、市民生活に溶け込むような取組を進めていただきたい。
- ・移動式水素ステーションを活用して、搭載している燃料電池を非常用電源として利用することも考えられる。
- ・イベント等でも燃料電池に触れてもらう機会を増やすことで、水素に対する理解が進んでいくのではないか。
- ・本格的に水素を導入していくには、大量に水素を使うところ（発電等）に導入し、価格低減を進めていく必要があるのではないか。
- ・（資料3に関連して）舞鶴港では、カーボンニュートラルポート（CNP）の形成という観点から、水素利用の前段としてCO₂排出量を削減するためにどうしていくかという視点も必要ではないか。
- ・石炭火力発電所におけるアンモニア混焼のための水素利用や、府南部物流センターにおけるトラック用の水素ステーション設置等、大きな取組を進めていくのも一つのやり方ではないか。
- ・シンボリックな取組（市バスにおけるFCバス導入等）による啓発が良いのではないか。
- ・物流分野における水素導入にあたり、災害時協力協定を締結する等も一つの価値になるのではないか。